

峨眉山月の歌（李白）

峨眉 山月 半輪の 秋

影は 平羌 江水に 入つて 流る

夜 清溪を 発して 三峽に 向う

君を 思えども 見えず 渝州に 下る

峨眉山月半輪秋 影入平羌江水流
夜發清溪向三峽 思君不見下渝州

解説 夜、清溪を出発して三峽に向かう舟の中で、峨眉山上の月を思つて歌つた詩。

語釈 ※峨眉山 四川省峨眉県の西南にある名山。 ※半輪：半月、片割れ月。 ※影 月光。 *平羌江 四川省雅安県の北から流れ、大渡河と合流するところ。青衣江ともいう。 ※清溪 四川省漢源县にある。 ※三峽 峽はふたつの山にはさまれた急流をいう。 ※君 月をさす。一説に峨眉は蛾眉（美人のこと）に通ずるところから、愛人をさすともいい、また、友人をさすともいう。 ※渝州 今の重慶。

通釈 峨眉山に片割れ月がかかる秋の夜。月光是平羌江の水に映り、きらきらと輝いている。私は夜、舟で清溪を出発して三峽に向かった。途中、月を見たいと思いつつも山にさえぎられて見ることができず、舟は渝州へと下つてゆく。